国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	開会挨拶、開催趣旨説明
他言語論題 Title in other language	Opening, Aim of the Symposium
著者 / 所属 Author(s)	樋山 千冬（HIYAMA Chifuyu）／国立国会図書館調査及び立法考査局文教科学技術課科学技術室長、石渡 裕子（ISHIWATARI Hiroko）／国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査員、文教科学技術調査室主任
書名 Title of Book	コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題　科学技術に関する調査プロジェクト報告書（Trends and Issues of Social Media in the Era of Coronavirus）
シリーズ Series	調査資料 2020-4（Research Materials 2020-4）
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2021-03-25
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-875-4
本文の言語 Language	日本語（Japanese）
摘要 Abstract	—

＊ この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。
＊ 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

開会挨拶

国立国会図書館　調査及び立法考査局
文教科学技術課　科学技術室長　　樋山　千冬

国立国会図書館の科学技術に関する調査プロジェクト事務局の樋山でございます。

時間になりましたので、シンポジウム「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」を始めます。私どもウェビナー形式でのイベント開催、経験が浅くて御不便をおかけするかと思いますが、あらかじめお詫び申し上げます。

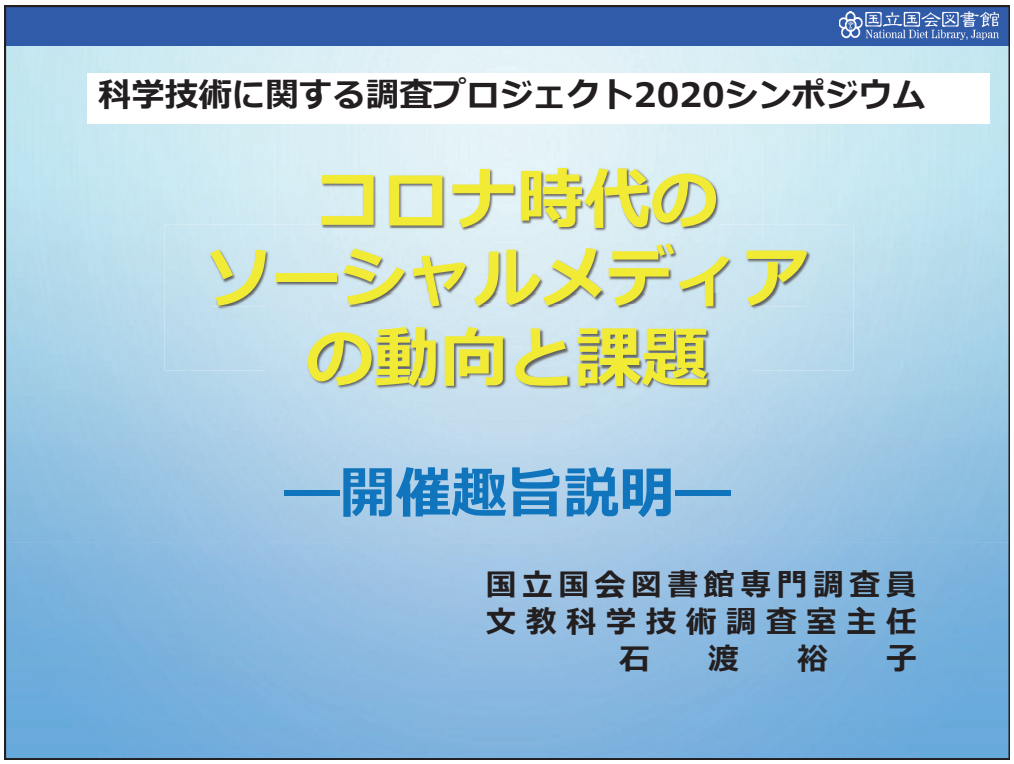
参加者の皆さま、御案内の際に本日のプログラムをダウンロードされているかと存じますが、プログラムの御案内をします。このシンポジウムは、ソーシャルメディアをめぐり、昨年度に有識者の方々の協力を得て私どもで行いました調査でカバーしきれなかった視点を含めまして、個別のIT（情報技術）の問題を始め、新たに生じております課題を展望しようというものです。昨年度の調査につきましては、後ほど改めて振り返りをいたします。

シンポジウムの本体でございますが、まず平和博先生に問題提起をしていただきます。その後、鳥海不二夫先生、三浦麻子先生、曽我部真裕先生、板倉陽一郎先生、久木田水生先生にそれぞれ御発表をお願いしております。休憩を挟みまして、昨年度の調査で原稿を執筆していただいた水谷瑛嗣郎先生からコメントを頂戴した後、平先生のファシリテーションでパネルディスカッションを行います。

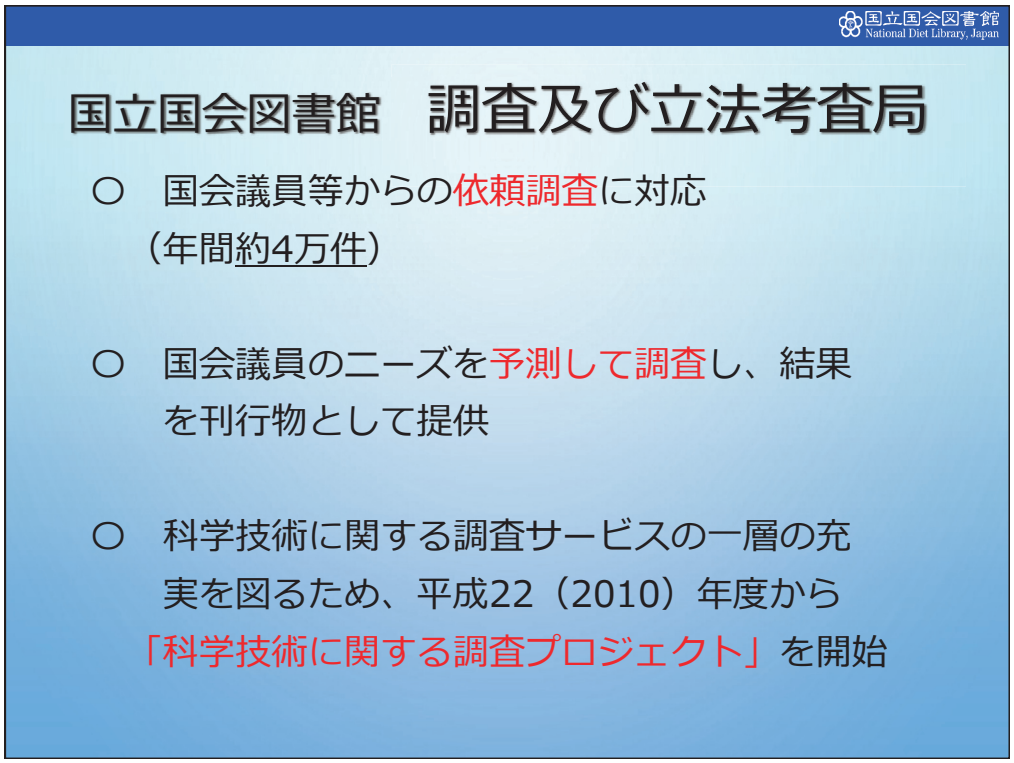
御参加の皆さまからは参加登録の際に先生方へのご質問を頂戴しておりますが、本日ご覧の画面の右下にございますウェビナーのチャット機能から質問をお寄せいただくこともできます。休憩時間までお受けしますので、チャットの宛先を「全てのパネリスト」とした上で、御質問ください。時間の制約のため、全てを取り上げることはできないかもしれません。予めご承知いただければと存じます。

プログラムの御案内は以上です。

開催趣旨説明　プレゼンテーション資料



スライド 1



スライド 2

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館
「科学技術に関する調査プロジェクト」

平成22（2010）年度以降、科学技術分野に関わる重要な国政課題の中から特定テーマを選定し、外部の専門家等と連携して調査・分析を行い、成果を報告書として刊行。

令和元（2019）年度は、
『ソーシャルメディアの動向と課題』
『ポスト2020の科学技術イノベーション政策』
『「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成』を刊行。

科学技術に関する調査プロジェクト
パンフレット

スライド 3

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

討論型調査

文献調査に加え、平成29（2017）年度には討論型調査を開始。中長期的なテーマについて、有識者の方々が討論し、課題を洗い出した後、報告書として取りまとめる。
今年度は昨年度の調査「ソーシャルメディアの動向と課題」に盛り込んでいない観点として、新型コロナウイルス禍による社会の混乱と変化を受けて、テーマ冒頭に「コロナ時代の」を付加。改めてソーシャルメディアの在り方に焦点を当てる。

スライド 4

国立国会図書館 National Diet Library, Japan

『ソーシャルメディアの動向と課題』

<目次>

- **ソーシャルメディアとは何か**（田中幹人）
- **SNSと法の交錯点**―表現の自由、民主政治の視点から―（水谷瑛嗣郎）
- **ソーシャルメディアのアーキテクチャと表現の自由**（成原　慧）
- **SNSにおける個人情報の不正利用**―ケンブリッジ・アナリティカ事件―（川西晶大）
- **選挙におけるソーシャルメディアの活用**（佐藤　令）
- **「フェイクニュース」/偽情報問題の現状と対策**（神足祐太郎）
- **ソーシャルメディア時代に求められるメディア・リテラシー**（石渡裕子）

スライド 5

国立国会図書館 National Diet Library, Japan

ソーシャルメディアをめぐる事件・課題

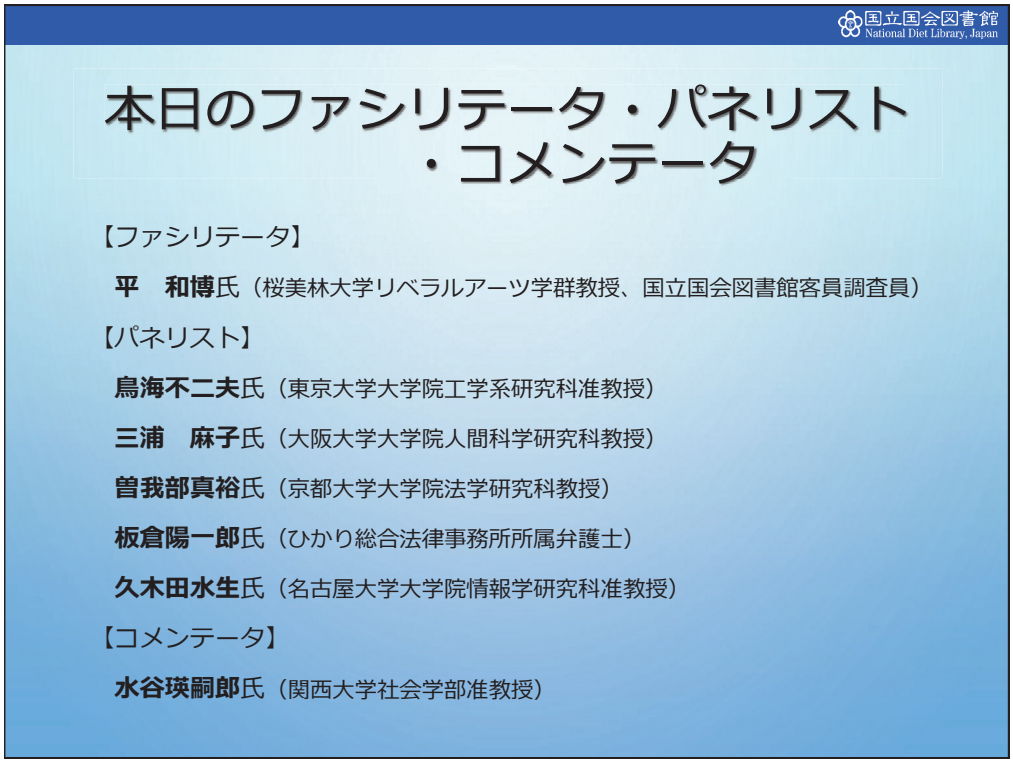
- 新型コロナウイルスに関する誤情報の拡散
- SNS等での誹謗中傷に対する対策
- Twitterによる政治的意見表出のうねり

　など

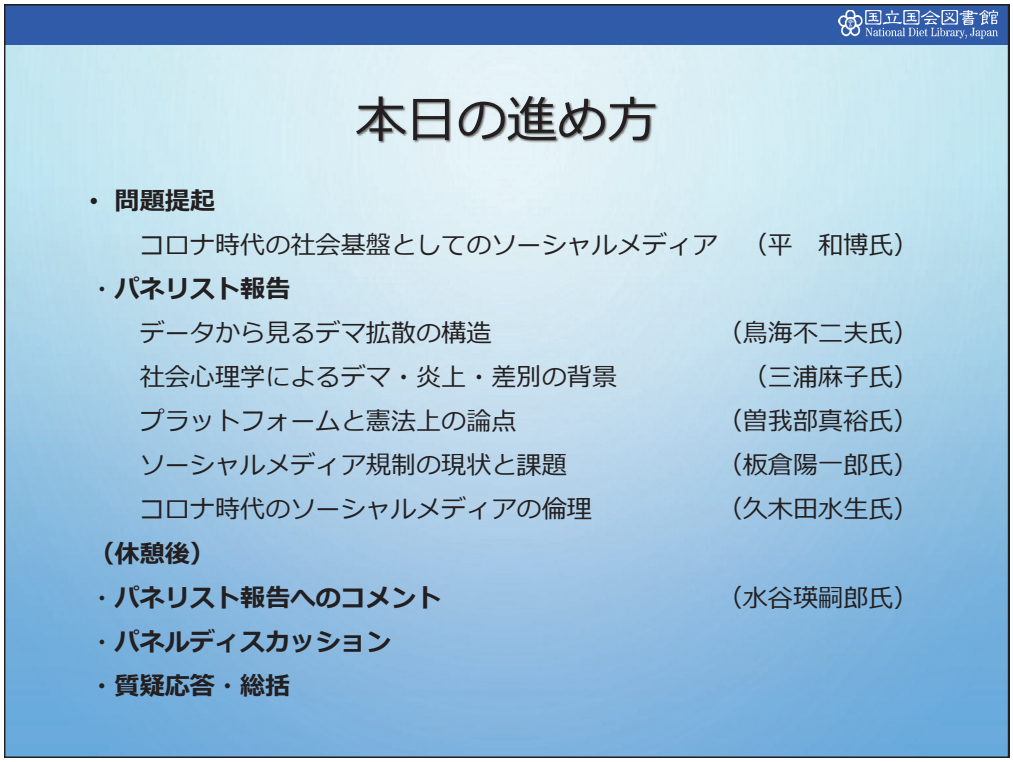
→昨年度の報告書は法や政治の面から捉えた論考が多い。

更に幅広い観点からソーシャルメディアをめぐる課題を掘り下げるためシンポジウムを開催

スライド 6


国立国会図書館
National Diet Library, Japan
本日のファシリテータ・パネリスト・コメンテータ
【ファシリテータ】
平　和博氏（桜美林大学リベラルアーツ学群教授、国立国会図書館客員調査員）
【パネリスト】
鳥海不二夫氏（東京大学大学院工学系研究科准教授）
三浦　麻子氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
曽我部真裕氏（京都大学大学院法学研究科教授）
板倉陽一郎氏（ひかり総合法律事務所所属弁護士）
久木田水生氏（名古屋大学大学院情報学研究科准教授）
【コメンテータ】
水谷瑛嗣郎氏（関西大学社会学部准教授）

スライド 7


国立国会図書館
National Diet Library, Japan
本日の進め方
・問題提起
コロナ時代の社会基盤としてのソーシャルメディア　（平　和博氏）
・パネリスト報告
データから見るデマ拡散の構造　（鳥海不二夫氏）
社会心理学によるデマ・炎上・差別の背景　（三浦麻子氏）
プラットフォームと憲法上の論点　（曽我部真裕氏）
ソーシャルメディア規制の現状と課題　（板倉陽一郎氏）
コロナ時代のソーシャルメディアの倫理　（久木田水生氏）
（休憩後）
・パネリスト報告へのコメント　（水谷瑛嗣郎氏）
・パネルディスカッション
・質疑応答・総括

スライド 8

開催趣旨説明

国立国会図書館　調査及び立法考査局
専門調査員　文教科学技術調査室主任　石渡　裕子

シンポジウムの開催にあたりまして、まずは国立国会図書館の「科学技術に関する調査プロジェクト」について御説明をいたします。

国会活動を補佐するために当館に置かれた調査及び立法調査局では、国会議員等から年間約4万件寄せられる依頼調査に対応しています（スライド2）。また、国会議員のニーズを予測して調査を行い、その結果を様々な刊行物の形で提供しています。国会ではあらゆる分野の法案が審議されるため、科学技術に関する調査サービスの一層の充実を図ることを目的として、平成22（2010）年度から「科学技術に関する調査プロジェクト」を開始いたしました。

科学技術分野に関わる重要な国政課題の中から毎年テーマを複数選び、外部の専門家の方々と連携・協力して調査・分析を実施しています（スライド3）。昨年度（2019年度）は『ソーシャルメディアの動向と課題』、『ポスト2020の科学技術イノベーション政策』、『「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成』の3つのテーマを取り上げ、調査を行いました。

本日行うシンポジウムは、平成29（2017）年度から新たな試みとして開始した「討論型調査」となります（スライド4）。中長期的なテーマについて有識者の方々に御討論いただくことによって課題を洗い出した後、報告書として刊行します。今年度のテーマは昨年度に実施したソーシャルメディアに関する調査の報告書『ソーシャルメディアの動向と課題』を踏まえています。今般の新型コロナウイルス禍による社会の混乱と変化を受け、改めてソーシャルメディアの在り方に焦点を当てる意味合いから、「コロナ時代」をテーマの冒頭に付加して「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」といたしました。

今年3月に刊行した報告書には全部で7つの論考を収載しています（スライド5）。まず、田中幹人先生に、ソーシャルメディアに関する学術的なメディア論を中心に隣接領域の研究成果を御紹介していただきました。続いて、水谷瑛嗣郎先生に、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）と民主政治の関係を考察した上で、表現の自由と規制の在り方について御検討いただきました。成原慧先生にはソーシャルメディアの物理的・技術的構造である「アーキテクチャ」に着目して、我が国のソーシャルメディアに関する法や政策の在り方について基本的な知識と論点を整理いただきました。

また、数あるトピックの中から次の4つについて当館職員が執筆しました。1つ目は、ケンブリッジ・アナリティカ事件を取り上げ、Facebookに登録された個人情報が不正利用されたことに対するアメリカ、イギリスの対応、2つ目は、アメリカ大統領選やヨーロッパ各国の選挙運動におけるソーシャルメディアの活用、3つ目は、フェイクニュース問題の定義や影響に関する議論を踏まえた上で、諸外国において講じられた対策、4つ目が、学際的な概念であるメディア・リテラシーの概要や、それを身に付けるための教育についてです。

ソーシャルメディアをめぐりましては、昨年度末の報告書刊行後も新型コロナウイルスに関する誤情報の拡散、SNS等での誹謗中傷に対する対策、Twitterによる政治的意見表出のうねりなど、様々な事件や課題が生じています（スライド6）。昨年度の報告書では法や政治の面か

らソーシャルメディアを捉えた論考が多かったことに鑑みまして、さらに幅広い観点からソーシャルメディアをめぐる課題を掘り下げるため、当館の客員調査員として、ジャーナリズム論の御専門家である平和博・桜美林大学教授をお迎えし、企画に携わっていただくとともに本日のファシリテータをお務めいただくことになりました（スライド 7）。

パネリストの方々にはソーシャルメディアに関連する諸問題に造詣が深く、計算社会科学、社会心理学、情報法制、法学、技術哲学等の専門家である方々をお招きすることができました。御報告をいただく順に御紹介いたします。東京大学の鳥海不二夫先生、大阪大学の三浦麻子先生、京都大学の曽我部真裕先生、ひかり総合法律事務所の板倉陽一郎先生、名古屋大学の久木田水生先生です。また、昨年度の報告書に論文を御執筆いただいた関西大学の水谷瑛嗣郎先生にコメンテータをお願いしています。

本日は、平先生に問題提起をしていただいた後、パネリストの方々からそれぞれ 10 分程度の御報告をいただいてから、討論に入る予定です（スライド 8）。大変限られた時間ではございますが、可能な限り幅広い視点からソーシャルメディアの動向と課題に対する忌憚のない御意見をいただければ幸いでございます。

以上をもちまして開催趣旨の説明といたします。